

市民開放授業の受講生数

NO1は「日本史史料論Ⅶ」の8人

平成26年度前期の開放授業を受講する121人が学ぶ授業は112科目。このうち、一番受講生が多い科目は「日本史史料論Ⅶ」の8人＝写真・講義台は大串先生。続いて「環境科学入門」、「哲学者たちの智慧」、「ロシアの文化」、「カウンセリング概論」の各4人が多い。前期の開放授業474科目のうち、市民受講生ゼロは362科目。1人という授業が大半だ。



90分緊張の授業 面白いです

5月30日金曜日2時限、人文学部第一講義室。40数人の現職学生とともに市民受講生8人が学ぶ「日本史史料論Ⅶ」の授業を見学した。

担当は大串潤児先生、昭和天皇側近の木戸幸一が書き残した『木戸幸一日記』を詳細に読解し、日本の敗戦過程を分析する2年生中心の授業。この日は宇垣一成日記も読みながら東条首相選定の過程を追った。

8人の「市民学生」のうち最高齢78歳の勝野啓三さん＝大町市＝は、プリントの小さな文字にルーペをかざして史料を読む。「頭のしわ伸ばしで勉強」というが、開放授業スタート前の聴講生時代の3年も含め、10年以上信大に通う大ベテラン。「先生は若いのに幅広いものの考え方、解釈をしている」と魅力を語る。

安田晴代さん（63）＝松本市＝、下屋喜晴さん（66）＝同＝は、「近現代史に関心があって」、森村昇さん（61）＝岡谷市＝も「理系だが歴史が好きで」受講を始めた。

口々に「90分間緊張しますが、楽しく面白いです」と語り、次の授業に向かう人もいた。